

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： データ粒子化による高速高精度な次世代マイニング技術の創出
2. 研究代表者： 宇野 毅明（国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系 教授）
3. 中間評価結果

グラフのクラスタリングやマッチングを対象としたデータ研磨の高速アルゴリズム、データインタラクション技術に関する研究などが順調に進んでいる。さらに、ハッカソンでのアウトリーチ活動と利用状況の分析、婚活支援等での技術の実用化などは、当初の期待を上回るスピードで進んでいる。一方で、本研究課題で提唱し、可能性を追求している「粒子化」の概念を固める作業の進捗は、当初の期待よりやや遅れている。これは、事例を積み上げることをより優先する戦略に変更したためであり、凸凹はあるが、総合的に考えて順調に進んでいる。論文は、論文誌や国際会議で多数発表されており、学術的に十分なレベルに達している。「粒子化」の概念には独自性があり、マイニングや機械学習の基礎として重要な意味を持つと思われる。

「粒子化」を応用問題に適用するための具体的な手法や全体のフレームワークを明らかとし、実際に多くの問題に適用することで、社会に貢献することが期待できる。今後、「粒子化」のアイデアを国際的に広く認められるようにするための努力が必要になる。適用事例を増やすことはもちろん、わかりやすい説明方法の考案も含め、普及に向けた活動を期待する。